

第15回廃炉・汚染水対策現地調整会議の概要

1. 日程

日時:平成26年11月25日(火) 12:30~15:30

場所:いわき市文化センター 1階 大講義室

2. メンバー

政府: (議長):高木原子力災害現地対策本部長(経済産業副大臣)

原子力災害現地対策本部:後藤副本部長

復興庁:豊島次長(福島復興局)

文部科学省:西田放射性廃棄物企画室長(代理)

農林水産省:安岡研究調整官(代理)

農林水産省水産庁:中津研究指導課長

国土交通省:五十嵐河川環境課長

廃炉・汚染水対策チーム:糟谷事務局長補佐、土井事務局長補佐、吉田事務局長補佐、江口対策官、豊口企画官、三木アドバイザー

廃炉・汚染水対策現地事務所:野田所長、木野参事官、遠藤調整官、

岡山対策官、小野対策官、有賀対策官

原子力損害賠償・廃炉等支援機構:松永所長

東京電力:河合廃炉推進カンパニープレジデント、増田廃炉推進カンパニープレジデント、白川福島第一原子力発電所ユニット所長

福島県(オブザーバー):玉根生活環境部次長

規制当局(原子力規制庁):金城福島第一原発事故対策室長、持丸地域統括管理官

3. 結果概要

(1) 議長冒頭挨拶

○本日も御多忙の中、お集まりいただき感謝。

○引き続き現場においては、海水配管トレンチからの汚染水除去等、難しい課題があり、関係者におかれては、一つ一つの対応を丁寧かつ確実に進めていただいている。問題点ばかりがクローズアップされているが、短いスパンだと見えにくくても、例えば1年前との比較を行うとその確実な進展状況をはっきりと見ることができる。本日は各テーマの御説明の中にそのような「ビフォア・アフター」を比較した報告を盛り込んでいただいている。

○一方で、今月、タンクエリアでの負傷事故が発生した。作業車両・重機からの油漏れも続いている。このような現場での事故・トラブルは、重要な問題であり、本日はその原因

や対策についても議論したい。

- 現地調整会議では、汚染水対策にとどまらず、地元にとって関心の高い重要な事項についても議論することとしており、本日は、「緊急安全対策の進捗状況」、「固体廃棄物の保管状況」、「プロジェクトマネジメント体制」についても報告を受け、現場での課題について、一丸となって、しっかり対応していきたい。
- また、多核種除去設備（ALPS）等については、引き続き、既設ALPSの処理状況、増設および高性能ALPSのホット試験の運転状況について報告を受ける。その他の汚染水処理設備の追加処置についても説明を受ける予定である。
- 海水配管トレンチについては、トレンチ本体を充填していく手法やスケジュールについて報告を受ける。
- タンクの設置等については、タンク増設の進捗状況等に加え、フランジ型タンクのリプレイスについて報告を受けたい。
- 1～3号機放水路の溜まり水については、10月の台風で1号機放水路のセシウム濃度が上昇した件も含め、雨水対策の調査状況や浄化に向けた今後の対応について報告を受けたい。
- その他、サブドレンの運転試験、凍土遮水壁等についても進捗状況の報告を受ける予定である。
- 本日も、活発な御意見、徹底した議論をお願いしたい。

(2)会議概要(主な指摘事項)

議題2

<資料1-2>

- タンク旋回梯子レール落下事故は原因究明と再発防止を徹底し、類似の事故が発生しないように安全管理について水平展開すること。

議題4

<資料1-4>

- 固体廃棄物処理については一時保管を含め、処理プロセスの全体管理を行い適宜報告すること。

議題 5

<資料 1 - 5 >

- 重機の油漏れについて、ガソリンのような引火性の高いものの漏洩が発生している。リスクの感度を高くし、日常的に重機など使用機材の点検を行うこと。

議題 6

<資料 1 - 6 >

- トレンチ凍結止水が思うように進まなかったことを教訓に、プロジェクトマネジメント体制のあり方について再検討すること。
- プロジェクトマネジメントにおける責任の所在を明確にすること。

議題 7

<資料 1 - 7 >

- ダスト飛散については、誤作動があっただけで風評被害につながる可能性もあるので、メンテナンス等をしっかり行うこと。

議題 8

<資料 2 >

- 福島第一原発の廃炉汚染水対策は福島の復興再生がかかっている。それぞれの対策について実証試験も行い、必ず結果が出るようにしてほしい。
- トレンチのトンネル底部には砂が堆積しており、一部セメントが充填せず完全な止水ができない。対策について次回説明すること。
- トレンチ止水についてはプロジェクトマネジメントがうまくいっていない。対策を進めるにはプロジェクトマネージャーのみならず、経営陣の強い意思が必要。今後のスケジュールについては社をあげて努力し、前進が見えるよう進め、次回までに報告すること。

<資料 3 >

- 建屋の内側と外側の水位管理ができることが凍土壁の運転開始の条件である。水位管理の方法についてはしっかり検討すること。

➤ タンクの解体については、地元きちんと説明すること。

(3)次回以降の日程

○次回は12月開催。詳細の日程は決定次第、事務方より連絡。

(以上)